

セブン-イレブン物流:エコへの取組み

# セブン-イレブン国内外店舗数



2017年5月末現在  
国内 **19,579店**



2017年3月末現在世界約**62,000店**

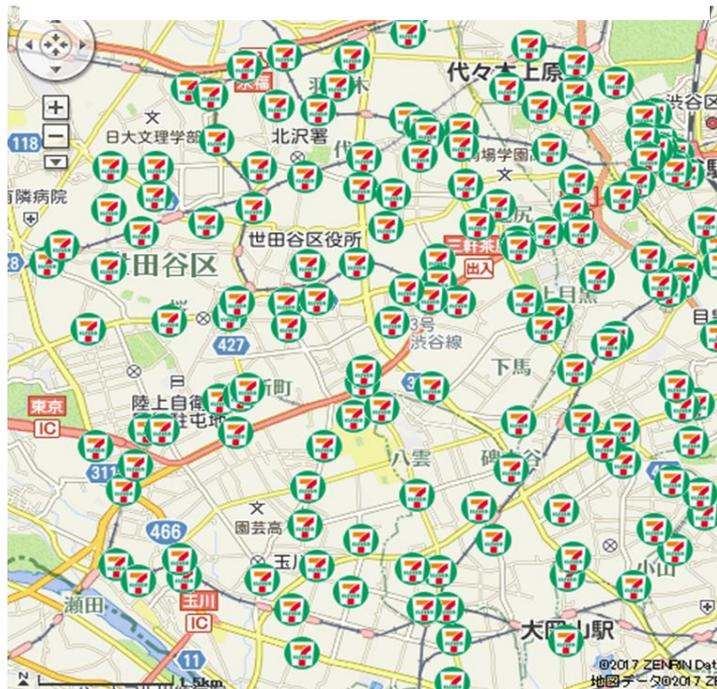


日本	19,423	台湾	5,137	スウェーデン	183
アメリカ	8,424	タイ	9,788	デンマーク	186
メキシコ	1,875	フィリピン	2,031	アラブ首長国連邦	8
カナダ	651	マレーシア	2,154	合計	62,243
韓国	8,679	シンガポール	415		
中国	2,369	インドネシア	116		
		オーストラリア	650		
		ノルウェー	154		

## セブン-イレブンの基本戦略 ドミナント戦略



### 【高密度多店舗出店】



#### ドミナント戦略の目的

- チェーンの認知度の向上
- 来店頻度の増加
- **物流効率の向上**
- 加盟店様への経営アドバイス時間の確保
- 広告効率の向上



創業2年目で  
24時間営業を開始



共同配送センター

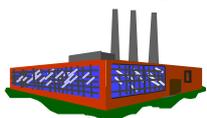
# 物流合理化×エコ&セーフティ

【ecology : economy】 【Safety】

## セブン-イレブン本部の物流の立ち位置

### 商流フロー

■メーカー



■ベンダー



7-11加盟店



物流業務委託

### 物流フロー

メーカー  
工場orデポ



共配センター  
(7-11専用)



7-11加盟店



所有権メーカー様

物流費:メーカー負担

所有権ベンダー様

物流費:ベンダー負担

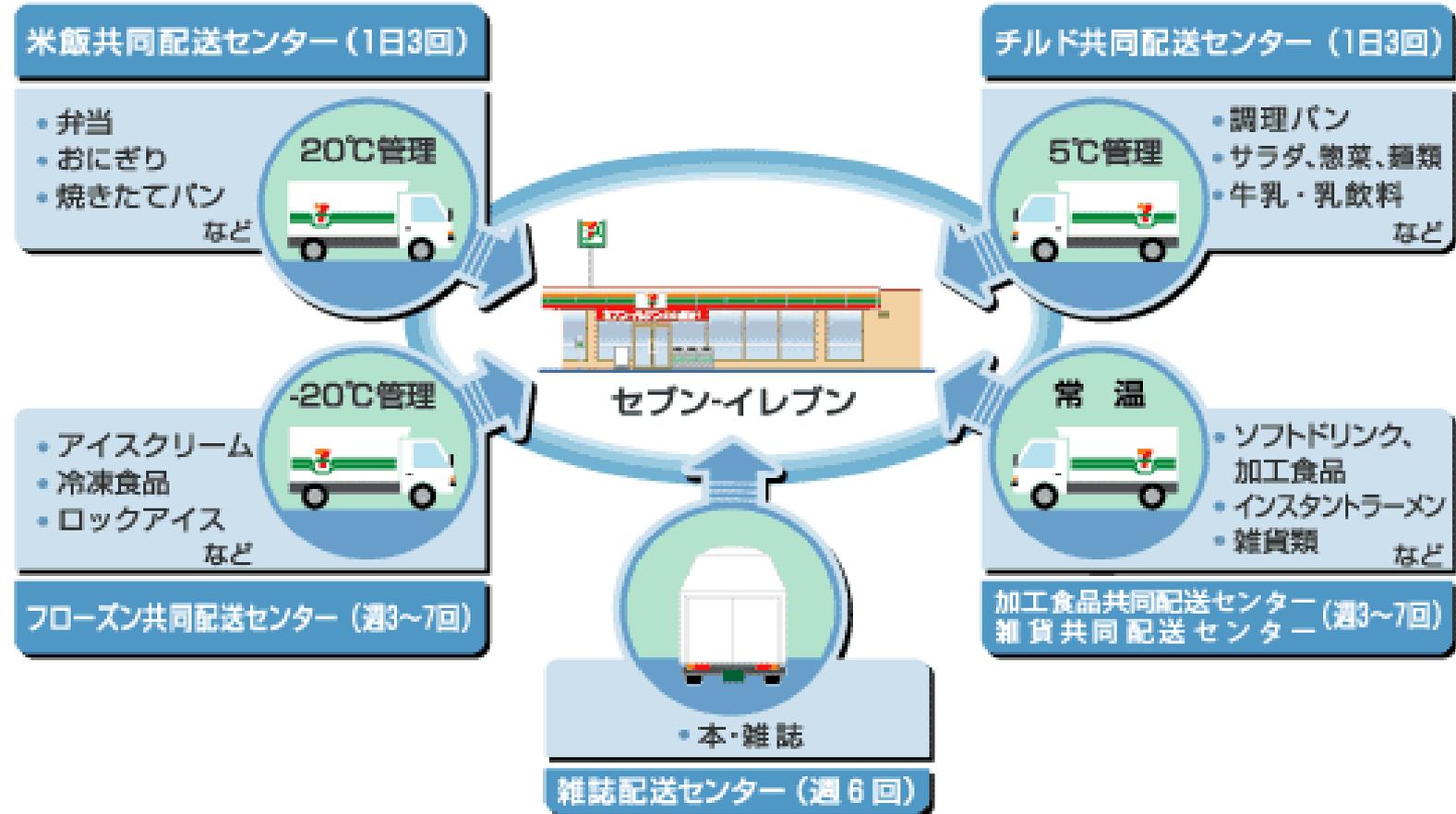
所有権各店舗

物流費込み商品原価

共配センターは取引先（ベンダー）が物流費を支払い運営されている。

**7-11本部は情報共有とサポートを実施**

## セブンイレブンの共同配送



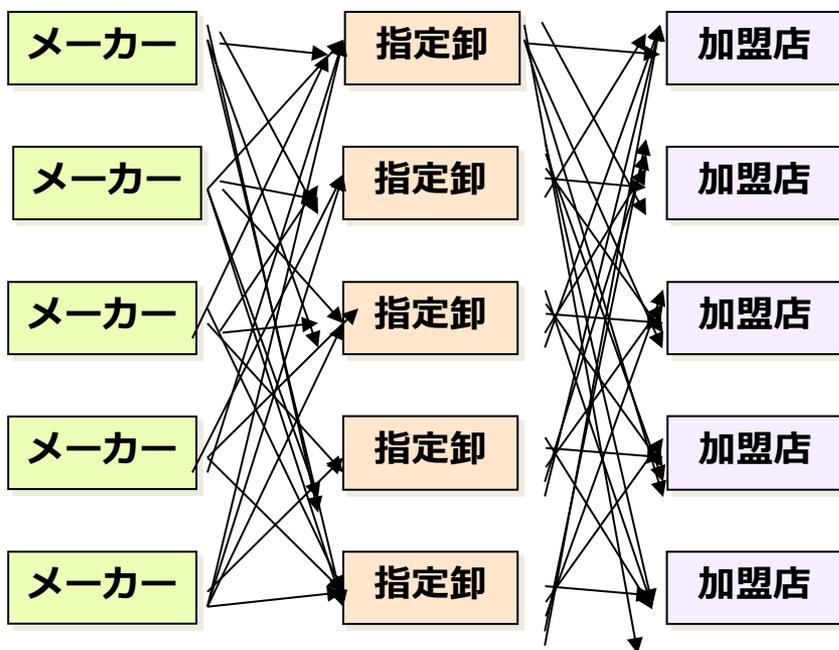
商品ごとの味や品質を維持するため最適な温度帯に分けて共同配送センターに納品し、各店舗に一括で配送しています。

## 創業時の課題：**非効率な物流網（店の負担過多）**

流通経路と物流を簡素化し無駄な物流を排除

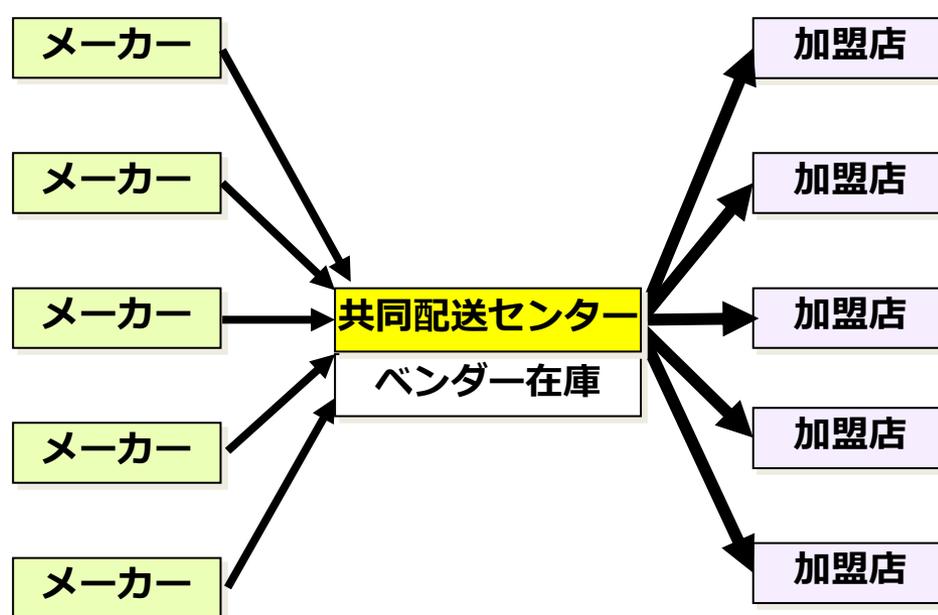
### 「共同配送」構築以前

点から点の物流



### 「共同配送」構築後

点から面の物流



必要な商品を効率的に納品する為、商慣習の見直し（店にも取引先にもメリット）

# セブン-イレブン物流効率化（省エネ化）の取組み

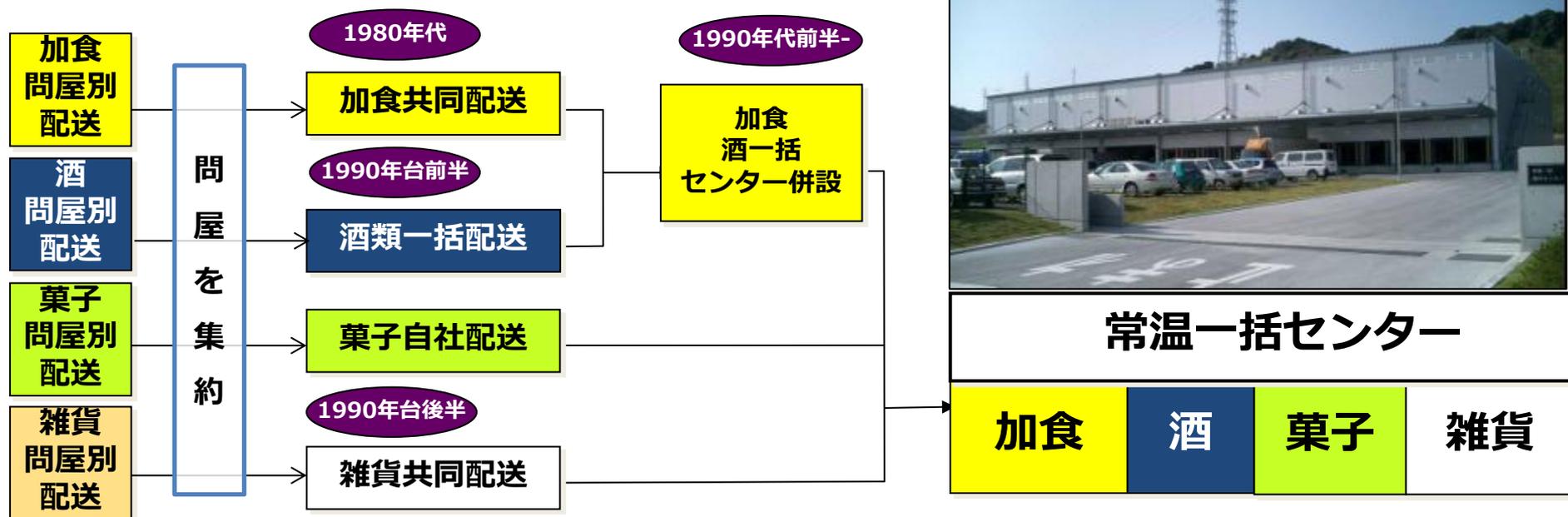


物流効率と店舗へのサービスレベル向上について、お取引先と議論を重ね

## 構築例

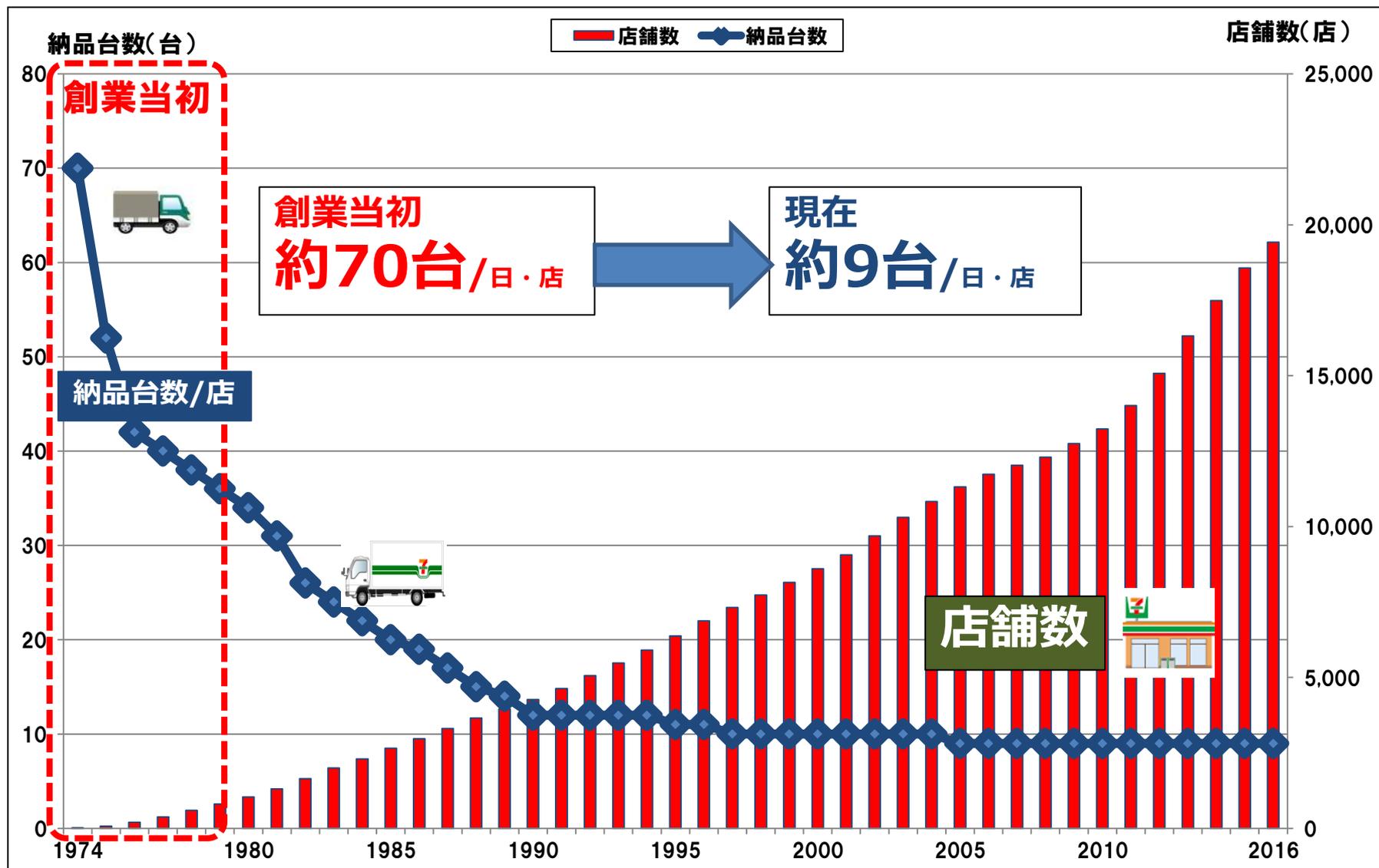
## 常温商品を段階的に集約

### 【集約過程】



常温カテゴリーを集約して混載配送

## 各温度帯別に共配センターを集約

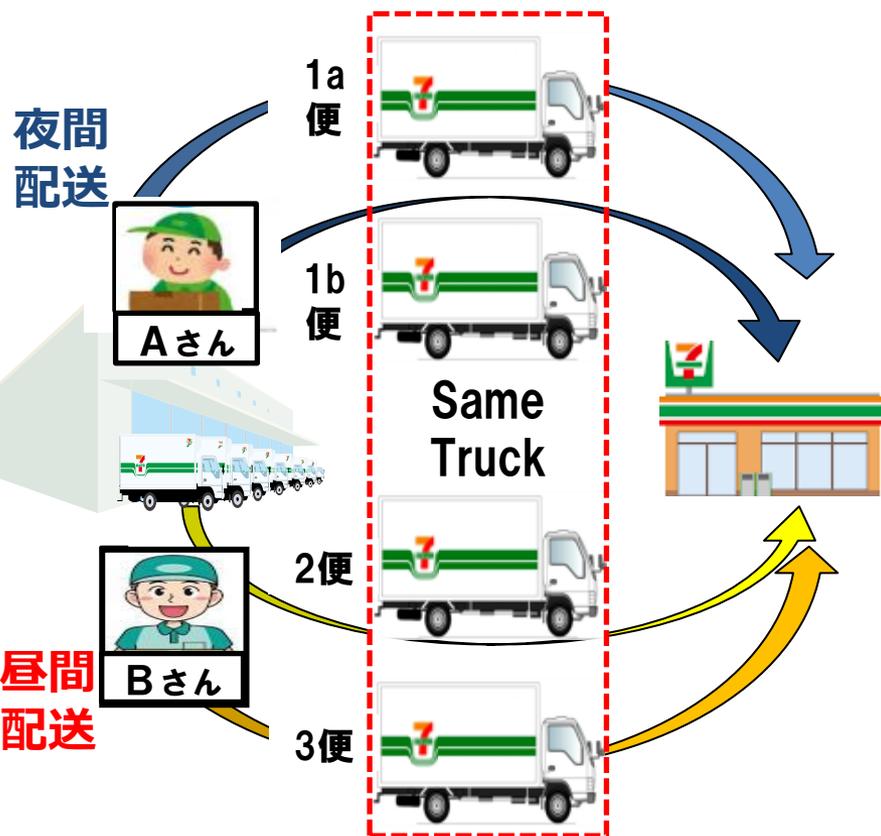


## 配送効率の追求（事例: デイリー商品）

お取引先様と議論を繰り返す

（物流効率と店舗へのサービスレベルを改善）

### 1) トラック稼働時間の向上



### ポイント

- ① 1台の車両を24時間フル稼働
- ② チルド温度帯と米飯温度帯混載
- ③ 配送エリアはコンパクト

1日1台の車両を配送員  
2名で搾りレー

1日4回効率良く店舗納品が実現

大前提: ドミナント戦略

## 配送効率の追求（事例:常温）

お取引先様と議論を繰り返す

（物流効率と店舗へのサービスレベルを改善）

## 2)トラック積載率の向上

### カテゴリ別共配の課題

車両規格と積載商品のアンマッチ  
【積載効率が悪い】



### 常温混載配送で課題解決

常温商品の重量物と軽量物を混載  
**積載荷物と配送車両のアンマッチを解消**

合理化原資を飲料等ケース品の週7配送実現



## 納品時刻/温度/速度/動態等の管理

車載端末と周辺機器で配送員をサポート

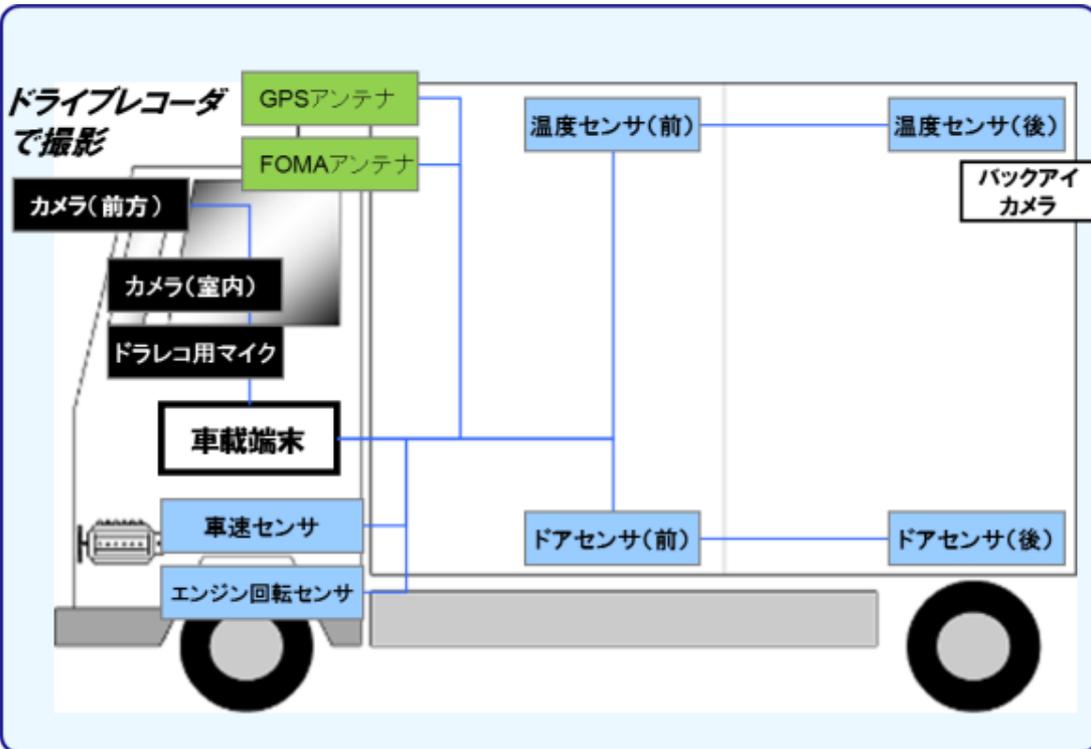
### 運行動態管理システム

全車両約6000台に搭載



### エコ&セーフティを目指す

#### 配送トラック燃費の改善

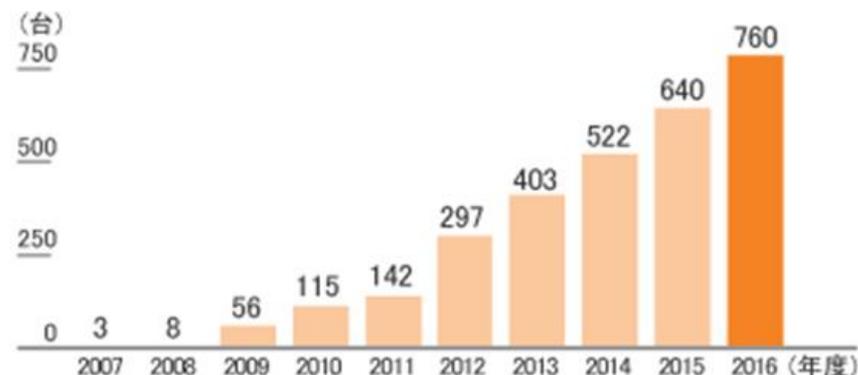


## 環境配慮型車両の導入

### ハイブリッド車両の積極導入



ハイブリッド車の導入台数



### 環境配慮型車両・リトレッドタイヤの導入促進

セブン-イレブンでは、配送にともなう環境負荷を低減するために、ディーゼルトラックから環境配慮型車両と認定されているハイブリッドトラックへ配送車の入れ替えを進めています。この車は減速時に発生するエネルギーを回収し、発進・加速時のモーター駆動として二次利用できるため、燃費向上やCO<sub>2</sub>排出量削減などの効果が期待できます。現在、配送車両5,329台のうち、ハイブリッドトラックは660台(2016年5月末)ですが、2020年までには全体の20%を環境配慮型車両に切り替えていく予定です。

また、資源節約、廃棄物削減ができる「リトレッドタイヤ(更生タイヤ)」は延べ7,542台※(2016年2月末)に導入しています。交換本数は16,175本(2016年2月末)。セブン-イレブンの店舗向け配送車両で使用されたタイヤがリトレッドタイヤとなり、再び配送車両に装着されるサイクルも確立しています。

## 環境配慮型車両の導入

### 電気トラックを試験導入

日本経済新聞

2017年(平成29年)5月9日(火曜日)

最大手のセブン-イレブン  
コンビニエンスストア

電動トラックで  
コンビニに配送  
75  
7-イレブン導入

ン・ジャパンは店舗への商品配送に電動トラックを導入する。従来のディーゼルエンジン車と比べて走行コストを約4割改善できる。人手不足に伴う運転手の人件費上昇で、小売業者は物流費増に直面している。全国に約1万9千店の店舗網を持つセブンが電動トラックを導入することで、小売業による物流改革が加速しそうだ。

導入するのは三菱ふそうトラック・バスが今秋にも量産を始める小型電動トラック。年内にも首都圏を中心に25台が稼働する見通し。

電気自動車(EV)の一種である電動トラックの購入費用はディーゼル車より割高となる。EV購入の補助金や走行コスト改善で、3年程度で回収できる見込み。

三菱ふそうトラックバス  
17年度国内50台中**25台**を  
セブンイレブンで試験導入

### 電気トラック車両



オリジナル配送車を  
三菱ふそうトラックと  
共同開発